
大航海時代～伝説の商人たち～

島田皓樹

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

大航海時代〜伝説の商人たち〜

【Nコード】

N7360J

【作者名】

島田皓樹

【あらすじ】

オランダ人の主人公ヴァンスがマルコ・ポーロの東方見聞録に記されていた、世界最後の秘境ZIPANGを目指して、仲間たちと一緒に世界を旅する物語。

始まりの前触れ・・・・・・・・（前書き）

かつて、マルコ・ポーロが記した 東方見聞録とうほうけんぶんろく

その中に出てくる ZIPANGじぽんぐ 東にあるという伝説の黄金の島
マルコ・ポーロはこう言った。

「その島には、見たことも無いものがたくさんある。探せ！！世界
最後の秘境ZIPANGを！！」

世はまさに、大航海時代！！

始まりの前触れ……………

マルコ・ポーロが東方見聞録を記してから200年余りたった1584年

オランダ王国は首都アムステルダムのある港……………

「おやっさんお帰りなさい。どうでした？積荷のほうは？」

「おおデイルか。問題なしだ。ワインに、豚に、ええっとなんだっ
たけな？」

「鶏肉と卵と野菜に……弾薬だよ。役人さん。」

「うるせーぞ！！ヴァンス！！しゃべってねーでさっさと仕事しろ
！！」

「ったく。うるせー、ひげオヤジ！！」

「なんか言ったか？？」

「なななんでもないですう……あははははは」

「あはははヴァンス君はしっかりしてるねー。役人じゃなくて、デ
イルでいいよ。」

「デイル。またあいつが調子に乗るだろ。」

「あははごめんごめん。」

「でもヴァンス君ももう16だろう。そろそろいいんじゃないか。
しっかりしてるし。」

「でも、変なところで馬鹿なんだよ。あいつは。」

「ヴァンス！！全部降ろしたか？？」

「うん。おやっさん。」

「じゃあ行くぞ。」

その夜……………

ここはオランダ貿易第一商会……………

「よう。どうだった？？イングランドまでの航海は？？大変だった
ろう？？ヴァンス。」

「楽勝だったよ。」

「んだあ。この生意気が。」

「おやっさん。俺に船をくれよ!？」

「ああ!？お前みたいなチビがか?？」

「チビって言うな!!」

「ぶふあふあふあふあふあ!!」

「笑うな!!」

「もういい!!おやすみ!!」

「ん?おお!?おやすみ。」

ヴァンスは寝室へあがった。

下では・・・

「おやっさん。船は出来たぞ？」

「よし。明日はあいつがここへ来て5年の記念日だ・・・」

「よしやあー!ー!ー!ー!!」

「バカ!聞こえるだろう!!」

明日はいい日になりそうだ・・・

始まりの前触れ・・・・・・・・（後書き）

ヴァンス・・・・・・・・この物語の主人公で16歳。オランダ人。小さいが喧嘩は強い！！

おやっさん・・・・・・・・オランダ貿易第一商会の社長。

デイル・・・・・・・・アムステルダム出航所の役人

旅立ちの日（前書き）

かつて、マルコ・ポーロが記した 東方見聞録とうほうけんぶんろく

その中に出てくる ZIPANGじぽんぐ 東にあるという伝説の黄金の島
マルコ・ポーロはこう言った。

「その島には、見たことも無いものがたくさんある。探せ！！世界
最後の秘境ZIPANGを！！」
世はまさに、大航海時代！！

旅立ちの日

「ヴァンス!! 朝だよ!! ヴァンス!?!」

「んん。ふわあああ・もうちょつと・・・・」

「おやっさんが呼んでるよ!!」

「んん。うああああああああああああ!!」

「早く起こしてよ!!」

「だつてえ。」

ヴァンスは港へ走った。

「待ってよ。ヴァンス。」

「やばいいいい!! なんか昨日大事な話があるって!!」
徐々に目の前が開けてくる。

(おやっさん怒るかなあ・・・・。)

港への道を通り走る。後もう少しだ。すると、次の瞬間!!
パァーン!!

「ヴァンス、おめでどう!!」

「え??」

「今日はお前がここに来てから5年目の記念日だ。」

「僕からも祝福しますよ。ヴァンス君。」

「おやっさん。デイルさん。」

「泣くなよ。それより、あれをみろ。」

港には一台のバルシャが停泊していた。

シューシューシューシューシュー

「小僧、なんか反応するんだよ!! せっかくおやっさん達と買ったのに!!」

「だつてえ。これバルシャでしょ!?! 普通キヤラベルか、コグでしょ??」

「んだと!! このクソガキ!!」
ポカン!!

「ってーな!! 何すんだよ!!」

「まあよせ。ヴァンス、お前ZIPANGに行くんだろ? しかも商売ときた。お前はまだ若い。ここらへんなら海賊もないし、内海だから、海も荒れることは無いだろう。ここらへんは、価格が安定しているから、うまくやれば、もう少し大きい船も買える。仲間もいるしな。」

「おやっさん。うっ、ありがとう。で、でも結局はお金なかったんでしょ。」

「それを言うなー!!」

「まったくヴァンス君はおもしろいですね。あ、あとこれは入港許可証です。これがあれば、イングランドやその周辺の港には入港できます。なくしちゃいけませんよ。それと、これはロンドンの役人に渡してください。いろいろと世話を焼いてくれます。あと、これは兄への手紙です。航海士が必要になったら、彼のところへ行きなさい。その他の困ったことや、情報が欲しい時は、港の酒場がいいですよ。」

「ありがとう。デイルさん。ありがとうみんな。」

「お前の荷物と食料、コンパスと地図、その他必要なもの、大砲の弾薬、たぶんいらんけどな。」

「この街の名産品もどっさり積んどいたからな。サービスだ。なんたって商用に改造した、特注品だからな、その船。」

「がんばれよ。」

「気をつけてな。」

「ZIPANG見つけるまで帰ってくんじゃねーぞ!!」

「みんな・・・行ってきます!!」

ヴァンスは帆を張り、碇をあげた。

「みんなー!! 元気だなー!!」

「お前もなー!! ヴァンス!!」

船は追い風の中、ぐんぐんとスピードを上げた。みるみるうちにアムステルダム港が見えなくなった。

ヴァンスはみんなと別れた寂しさもあったが、それよりも、今から始まる冒険に対して、得体の知れない興奮を覚えた。
そのうちに夕日が水平線に消えあたりは、ただの暗闇と、波の音が残っていた・・・。

旅立ちの日（後書き）

次回は新たな仲間が増えます。お楽しみに！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7360j/>

大航海時代～伝説の商人たち～

2010年10月10日13時06分発行